

令和3年度(令和2年度実施事業分)事務事業評価評価票

No. 37-006

PDCA	事務事業名	雨水整備事業	部課等名	水道部下水道課雨水担当	担当 内線等	山本 481		
P 総合計画との関係性等	政策体系	章：第4章 安全で快適に住み続けられるまち						
		節：第2節 都市基盤の整備						
		基本施策：5. 治水・排水対策						
		単位施策：(2) 雨水排水対策の推進						
	根拠法令等	下水道法						
	対象・目的	雨水管渠を整備することにより浸水被害を抑制する。また、地勢的に排水不良となる地域の浸水被害の軽減を図るため、既存雨水管渠等の測量調査を行うとともに、状況を踏まえた適切な雨水排水計画の見直しを図る。						
	目的を達成するための手段・活動内容	過去に浸水被害が発生した乙川地域に雨水管渠を整備し、被害発生を抑制する。また、JR武豊線連続立体交差事業に伴い、雨水管移設工事等を実施する。						
D 前年度の活動結果と見られた成果	活動結果	活動実績		H30年度	R1年度	R2年度	単位	
		①雨水管整備延長		144.5	393.9	434.1	m	
		②						
		③						
		事業費		84,379	204,600	297,755	千円	
		人件費		6,558	6,831	9,258	千円	
		総事業費		90,937	211,431	307,013	千円	
		活動単位当たりのコスト		H30年度	R1年度	R2年度	単位	
	①雨水管整備費コスト(1m当り)		470.4	536.8	707.2	千円		
	②							
	③							
	成 果	成果指標		H30年度	R1年度	R2年度	単位	
		①雨水管整備延長	実績値	144.5	393.9	434.1	m	
			目標値	145.0	402.0	350.3		
②		実績値						
		目標値						
③		実績値						
	目標値							
C 課題の整理	観点別評価	必要性		有効性		効率性		
		①市の関与の妥当性	妥当	④上位施策への貢献	大きい	⑦コスト削減余地	ある	
		②市民ニーズ	高い	⑤成果向上の余地	ある	※手段の変更		
		③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ない	⑧受益者負担適正化余地	ない	
	事業の評価・課題	C 雨水管渠の整備は、半田東排水区内に浸水被害対策として新たな管渠を布設し、向山排水区では老朽管対策として管渠の布設替工事を実施した。また、JR武豊線連続立体交差事業に伴い、雨水管の移設及び新設工事を実施した。 課題としては、現在の耐震基準見直し前に整備された重要な幹線等について、耐震診断を実施し、耐震化を図る必要がある。						
		今後の事業の方向性	改善推進 浸水対策の最重要施設である排水ポンプ場の排水機能を確保するため、ストックマネジメント計画により、老朽化が進んでいる北浜田・若宮排水ポンプ場の改築・更新を実施し、排水能力の維持を図る。また、大型台風や近年多発しているゲリラ豪雨への対策を図るため、雨水管渠、ため池、水路等の総合的な雨水排除能力を検証し、最善な雨水排水対策を実施していく。					
令和3年度の目標			成果指標				目標値	単位
	雨に強いまちを創ります				—	—		